

この夏東京へ行った際、ここ数年のうちに建築された話題作を見てきた。まず、銀座のメゾンエルメス。設計したのは関空を設計したことで知られるフランス人のレンゾピアノ氏。建物の特徴は外壁がほとんどガラスブロックで覆われていること。このガラスブロックはエルメス用の特注品で大きさも45cm角と一般のものに比べると2~3倍の大きさがあり上品で質感のある外観を形成している。また、このガラスブロックの内側の側面には銀色の塗装が施されており、微妙な光を作り出しているのも興味深い。ガラスという素材は光の透過と反射の微妙なバランスがあり昼間と夜とでは全く違う表情を見せてくれるのも大きな特徴のひとつだ。エルメスのもつ高級感や上品さのイメージを表現することに成功していると思う。

次に、これもブランドショップだが、プラダブティック青山店。設計はスイスのヘルツォーク&ド・ムーロン。こちらの特徴はなんといってもその外観で、ひし形の大きなガラスが建物全体を覆っている。そのガラスも平板、凸面、凹面の3種類がランダムに配置されていて、光の角度、見る角度によって様々な表情を見せてくれる。建築的にはそのひし形のフレーム自体が実は構造体にもなっている点で、外装と構造の融合がすばらしい。全体として見ると水晶のように透明感がありつつ華やかさがあるイメージに仕上がっており、プラダというブランドを表現している。

このほかにも表参道には「ルイヴィトン」「クリスチャンディオール」「シャネル」等、それぞれに趣向をこらした独自の建築が建ち並んでいる。

そのどれもがその企業イメージの表現方法のひとつとして建築をとらえている。

海外のブランド企業はこのことに非常に力をいれているが、もう少し日本の企業も機能性や合理性だけでなく、その企業のオリジナ

リティを建築に表現してはどうかと思う。

最後に余談だが、東京滞在中にTVドラマのプロデューサーをしている友人に会った。TVドラマでセットはつきものだが、このセットがなかなか興味深い。視聴者の目は年々厳しく、またハイビジョンの発達により、特に歴史物などはかなりの精度と質を要求されるようで、セットといえど本格的につくるそうである。現存する建物が登場する際は、実際の設計図をもとに綿密に創っていくというのだ。幸いその一端を目にすることができたが、本当にすばらしい出来だった。各々に立場は違えど本物にこだわる点では共通することも多く、心に残るものとなった。TVをご覧になる際、そういうセットや小物など背景に目をやるのも面白い見方かもしれない。